



藤崎建設工業が建設を進めるZEH-Mの完成予想図(同社提供)

ZEHマンションに力

藤崎建設工業 鹿嶋に来年2月完成

建築設計施工の藤崎建設工業(行方市新宮、藤崎政

行社長)は、消費電力を太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーで賄うネット・ゼロ・エネルギー・ハウス・マンション(ZEH-M)建設を強化していく。全国でも先進的な取り組みで、県内では初めて。1次エネルギー削減と高性能機器の導入により、エネルギー削減効果は計79・2%を見込む。

ZEHは、居住環境の質を維持しながら冷暖房や給湯、照明などで消費するエネルギーを太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーで賄い、石油やガスなど1次エネルギーの年間消費量の収支ゼロを目指した

住宅。

同社のZEH-Mは現在、鹿嶋市内で建設中。鉄筋コンクリート造り3階建てで、延べ床面積924平方メートル。間取りは1K計36戸。2019年2月完成予定。総工費は2億5000万円。

中低層の集合住宅を対象にした環境省のZEH化補助金に採択され、1戸当たり70万円が交付される。環境保護や省エネルギーに関心が高い企業をターゲットに、借り上げ社宅としての需要を取り込みたい考え。今回のZEH-Mは、建物に高性能の断熱材を採用するほか、屋上部分に太陽光発電パネルを敷設。また、居室のエアコンや給湯器など備え付けの家電類にも、

熱効率の高い製品を設置する。これらにより太陽光発電などで1次エネルギーが21%。室内の高性能機器設置によるエネルギー創出分が58・2%の削減効果が見込めるといふ。

同社は今年6月、ZEH-M建築が請け負える「ZEHデベロッパ」に登録。エネルギー環境の改善に取り組む「環境イニシアチブ」(東京)によると、同様の業者は全国で9社(8月14日現在)しかおらず、県内に本社を置く企業では初めてといふ。

同社は年間100戸以上の賃貸マンションを建設。今後は段階的にZEH-Mに変更し、26年度までに全ての新築マンションをZEH

H化する目標を掲げる。藤崎社長は「定められた条件をクリアするのは大変だが、賃貸マンションのZEH化により、今後も二酸化炭素の削減に取り組みたい」としている。

(大平賢二)